

神奈川県山梨教会連合会より

かりん

「人との輪を大切に」

安達幸則先生は昭和二十一年、京都府福知山の農家のご家庭にお生まれになられました。当時は金光教の存在も知らなかったそうです。

高校卒業後、アパレル関係に就職され、約十七年間働かれました。その間に「結婚、世田谷教会にご縁を頂かれ後に学院へ、三十六歳の時に金光教師を拝命されました。その後、先代相模原教会長、田島悦子先生が亡くなられて、後継者が不在になり、それまでお手伝いに通っていた安達先生が二代教会長として相模原教会へ来られました。

Q 手続き関係とはいえ、血縁者でない先生がいきなり教会長として来られて、抵抗などあったのではないですか。

安達先生（以下：安）…有難いことに、ご信者さんやご近所さんとは、最初、多少の問題もありましたが、今ではとてもよい関係が出来ております。地域とよい関係を築くことは大切だと思っていましたのでよかつた。

たです。今年には地域の自治会の長に任命され、忙しくなりそうです。

Q 相模原教会は今年で布教二十五年だそうですね。何かされるのですか。

安…おかげさまで今年二十五年を迎えさせて頂きます。教会での記念祭というところ、他

教会の先生にもご案内して、派手にお祭りさせて頂くと思うのです

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第29回 相模原教会 安達幸則先生



が、この二十五年という節目こそ、教師・信者共に自分がこれまで歩んできた信心の歴史をふり返り、真に有難いと喜んでこの年を迎

えることが大切だと思っています。常平生の生活では、当たり前となってしまう事が多く、なかなか有難く思う気持ちの薄れがちですが、信心のおかけを蒙れる有り難い節目の年になるように願っています。

Q 信徒会で何かボランティアをされているとお聞きしましたが？

安…今、相模原教会信徒会では、月に一回、教会近くの特別養護老人ホームに、大きな絵や貼り絵を信徒のみなさんが作成し展示させて頂いており、もう二年目になります。宗教団体としてのボランティア活動は出来ないのですが、「ふれんず」という団体名で活動しています。その時々々の四季の風景や物語の一場面を信徒のメンバーで協力して作っています。

Q 月一回では、大変ですよ。

安…時には、今回の作品はどうなるだろうか？期限までに出上がるだろうか、という時もあります。しかし、作品展示の当日になると、不思議とすんなり出上がり展示することが出来るのです。これぞ神様からの後押しを頂いているのだと思います。

施設では、入所のお年寄りや職員の皆さんから、「今度はどんな作品が出来るのか？楽しみにしています」と声をかけて頂き有難いです。また、信徒会のチームワークもよくなり、続けていくことは大変ですが、いろいろなアイデアを出し合い、次の作品にみんながチャレンジし、信奉者同士の結束が生まれております。これからも、一つのことを実意思を込めて長く続けさせて頂きたいと思っています。

○ありがとうございました。（今村則子）

「いかに立派な教も、これを伝える人がなくては、広まりようはなく、広まらなくては、人は助からぬ。(中略)今の人は、とにかく先人の苦勞というものを見落とし易い。教祖と自分とだけで、信心が出来るように思うが、それであるから、実意丁寧の道にはずれるようになる。今日は、自由に信心が出来るように思うて、先生や先輩のことを忘れるものもあるが、これはとんでもない心得違いである。」

(中略)道は、金光大神によりて、開かれたことは、申すまでもないことであるが、その今日に至るまでには、先輩諸先生の容易ならぬ御苦勞と御辛勞とがあるのであって、そのおかげによることを、思わねばならぬ。」と、畑徳三郎先生が、東光園を開くに当り、ご挨拶をなさりました。

今年、神奈川県布教百二十年という、お年柄を迎えまして、改めて県下の布教に御尽力下された先師先人を思い出し、私の知る処を記します。

まず、福田源三郎先生のことについての思い出の一つ、先生は、「おみき」でおかけを頂くとお話しをよくなさっておられた。或る年、カゼを引かれて休んでおられた時、私はお見舞いに行き、「先生、おみきでおかけを頂きました。」と申し上げ、先生の胸に吹きつけました。先生は、「金光大神様、金光大神様」と申し上げ

つつ、受けて下さいました。先生の信心の一面に出あい、感銘を受けたことがあります。

次に、桜井浅次郎先生のことですが、私は子供の頃から可愛がられまして、親しくして頂きました。先生は父と一つ違いで、御殿場

「先人を語る」シリーズ1 平塚教会 奥川達雄師記

神奈川県布教120年特別寄稿

在中の頃は、日参しておられ、列車に積まれた荷物を取り扱うことをしておられた。或る日、過って左手の手の平を裂傷する怪我をしました。医師の手当を受けた後、教会に参りお届けお願いの後、手の平の薬を洗い流して、母におみきを頂きたいと願われ、丁度御本部のお下がり御神酒を頂き、一週間でおかげを頂きました。

次に、村田敏男先生のことですが、神奈川県から初めての教務所長となられた時、私は次長として共に御用に当りました。当時、教務所員の慰安旅行がありまして、村田先生が行き先を決められた事がありました。横

浜港に停泊の「ひかわ丸」での一泊旅行です。当時の所員宮内清之先生(早稲田)が、船上での入浴に大変に喜び、船上での生活体験も出来、楽しい一泊旅行をした思い出があります。

かりんの輪

一言の心に残る御言葉で

登戸教会 鈴木すすゑ

教会の先生からお声がかかった。「かりんに掲載する原稿を」とのこと、辞退させて頂こうと思ったが、おかけを頂きっぱなしの私、ふと考え直して、自らの信心を省み、御礼の一端とさせて頂こうと思った。

6才の時、父の姉なる人に預けられ、終戦後育ての親が死別、父親の許で生活していた。その頃は、銀行に勤めていたが、結核蔓延の影響をもろに受け、休職を余儀なくされたが寝込む程ではなく、よくお向かいの辻本というお婆さんの家へ行って、或る日「あそこの金光さんへ行ってみ、よお聞いてくれはるよ」と声をかけて下さった。抵抗なく、「ほんなら今晚」ということで、夜八時の御祈念に連れて行って下さった。奇しくも私の誕生日の前日である。教会は古ぼけ、前を通つても看板に気付かない程で、入り口を入ると、優しそうな先生がお結界にお座りになっておられて、ニコニコと「よくお参りになったな」に始まり、教祖様のお話を延々として下さった。その中で、「よそのお宮さんの前を通つても、礼を言う心になれよ」と教えられている。その御理解が、入信して六十年になる今でも鮮明に心に残っている。「アレ、この宗教は他の宗教と違う」と、そう思った。

「一堂に会つて」

— 金光教東日本大震災一年祭参拝記 —

金光教東日本大震災一年祭参拝ツアーに参加した。

まず、東北で御用している友人へのお土産を、東京駅の土産売り場でバイトしている川越教会の信者さんの娘の店で買おうとしたが見つけることができなかった。

参拝ツアー四十九名の参加者には顔見知りも多く、あつという間に一ノ関駅に到着。ホームで、今回の一年祭教団会議員ツアーのお世話をさせて頂いた旅行会社勤務の私の長女が、同じ「はやて」で来たことを知り、会場までのバスに同乗させてもらう。

会場に着くと、東京学生会の有志など若い御用奉仕が案内に当たってくれていた。若松登先生（一関教会）の司会で第一部が始まる。三人の信徒による体験発表。気仙沼、仙台、福島とそれぞれの被災状況と心の動き、今の気持ちと、ここからの願いを聴き感銘を受けた。

第二部は祭典。大津波を体感し、被災された地域の方々に教会のお広前に受け入れ、共に泣き、共に祈り続けて来られた奥原先生の祭詞には、深さと重さを感じた。典札と玉串後取は、懐かしい学院同期生であった。



第三部は、高校生による音楽演奏。初めに金光籐蔭高校の和太鼓。ドラやシンセサイザーを使った迫力満点の演奏。あまりの響きに天井の飾りが落下。続いて金光籐蔭高校と金光大阪高校混成の吹奏楽。途中、森進一の「港町ブルース」が始まり、なぜ？？と思ったが、最後の所で金管パートのメンバーが「港、宮古、釜石、気仙沼」と歌うと、観衆は笑いながらもボロボロと涙を流していた。

懇親会が十八時半から大宴会場で開かれる。地元の方を始め、東北各地、首都圏などから、懐かしい顔、初めてみる顔、まさに「一堂に会して」の懇親会は、賑やかなれど何かを感じつつ進んでいく。「何か」とは、人ばかりでなく、神様も御霊様も、大震災で亡くなられた御霊様も、今なお行方不明の御霊様も集まってくださり、本当に「一堂に会して」の発表、祭典、演奏、懇親会であったように思えてならない。

二日目、気仙沼教会、石巻教会参拝と、陸前高田、南三陸の被災地で慰霊の御祈念。昨日と今日、あれほど流したにも拘わらず、まだまだ出る涙。帰りの仙台駅では、新幹線に乗る時間が無く、両手に荷物を抱えた老若男女が走り、階段を駆け上がり、発車一分前に全員無事乗車した時には、みんなの顔は安堵の笑みに満ち溢れていた。

（報告 福田光一）

「日参すればおかげになる」とも教えられたので、翌朝五時の御祈念にお参りさせて頂き、翌年一月入院するまでの間、一日も休むことなく、続けさせて頂いた。その間、入信一月後には御本部の御大祭におかげを頂いてお参りが出来て、金光様を目前で拝ませて頂くことが出来る等、当時、感激いっぱいの日々であった。

入院生活は、三年半もの長きに亘ったが、勤務先も良くして下さり、入院中は日参が出来ないため、毎日ハガキを書いて日参とさせて頂いた。その後退院して、又勤めさせて頂く中に、再び日参をさせて頂いた。入信して四年目のある日、東京に住むある方から結婚の話があった。思いもかけぬ事で、先生にお届けすると、すぐ神様に御祈念下さり、「行かせてもらいなさい」とのお言葉が下がり、私を受け入れて下さる人が出来て結婚し、早や五十四年という歳月が流れた。

体が丈夫でなかった私を、日参という形で鍛えて下さった神様、何と御礼を申して良いやら。私が一番嬉しかった事は、結婚後しばらくして、お義母さんが、「金光様へ連れて行ってほしい」と言われた時であった。その後、いつの程か主人もお参りするようになって、今では信徒総代として教会の御用をさせて頂いている。

兄弟姉五人の中で、私が一番の長寿であり、幸せ者である。やはり信心させて頂いている賜物としか言いようがない。神様は勿論、辻本のおばさん、教会の先生のおかげであり、本当に有難い。

平成 24 年度 天地金乃神大祭日程

教会名	日 程
藤沢教会	4月15日(日) 11時00分
甲府教会	布教・開教一〇年祭 4月15日(日) 13時30分
南甲府教会	4月19日(木) 13時00分
津久井教会	4月20日(金) 13時00分
鎌倉教会	4月22日(日) 13時30分
登戸教会	4月22日(日) 13時00分
横浜西教会	4月22日(日) 13時30分
川崎教会	4月29日(日) 13時00分
大明教会	4月29日(日) 13時30分
横須賀教会	5月3日(祝) 13時30分
子安教会	5月3日(祝) 13時30分
丸子教会	5月3日(祝) 13時00分
相模原教会	5月3日(祝) 14時00分
生麦教会	5月5日(祝) 13時00分
鶴見教会	5月11日(金) 13時00分
大磯教会	5月14日(月) 13時00分
野毛教会	5月19日(土) 13時30分
平塚教会	5月19日(土) 13時00分
小田原教会	5月20日(日) 14時00分
神奈川教会	5月26日(土) 11時30分
武蔵小杉教会	5月27日(日) 11時00分

《プレみんなのつどいのお知らせ》

今年の「みんなのつどい」は、金光教信
奉者有志で農作業体験活動を続けて9年
目になる「みのり」の畑で、トウモロコシ
収穫体験をさせていただきます。

収穫体験は7月16日(海の日)の予定で
すが、事前企画として、この機会に、収穫
体験だけでなく種まきにも参加させてい
ただいて、自分達でまいた種から育った、
採れたてトウモロコシを食べる…まで、一
貫した体験と一緒に楽しみましょう！

▼日時 4月30日(振休) 10時～14時

▼会場 みのりの畑(チラシ地図参照)
※JR五日市線武蔵引田駅から送迎し
ますので、駅からご連絡ください。

▼参加費 無料

※作業終了は12時くらいとなります。
※作業後に、トン汁を用意しています。
※次回7月16日のご案内は6月上旬頃
に教会宛お送りする予定です。

▼参加申込み 教会毎に参加人数をま
とめて4月25日までに子安教会村田
光治までお電話でお知らせください。

045・421・1927
(当日連絡先
村田携帯090・4620・6545)



《な・が・れ》

「気仙沼再訪」

子安教会 村田光治

これまで多くの方に、『かりん』から
の原稿依頼を快くお受け下さり、素敵な
文章をお寄せいただいております。編集
に携わる一員として、この場をお借りし
て御礼を申し上げます。

さて、3ページに報告がありました
「金光教東日本大震災一年祭」に合わせ
て、一年ぶりに気仙沼を再訪することが
できました。

一年ぶりに見る気仙沼は、瓦礫は取り
除かれ、道路がかさ上げされ、復興商店
街が開かれ：と復興へ向けての歩みが
一歩一歩進められていました。

しかしながらその一方で、「自分だけ
が生き残ってしまった」という自責の
念を抱え、ふとしたきっかけで、その思
いに押しつぶされそうになっている人
も多いのだとお聞きしました。

一年祭の祭詞には「被災者たちが生か
されて生きていくことを喜びとし、逝
きにし人達の無念の心に寄り添ひつつ
先々への確かなる道筋に向かひ」とあり
ました。

まだまだ息の長いお手伝いと、祈念
を、皆さんと共にさせていただきたいと
思います。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内